

土石防だより



富士投影（富士市）

年頭の御挨拶	2
2018年しずおかの砂防10大ニュース	
平成31年度 政府予算案閣議決定	3
全国治水砂防促進大会及び支部要望活動	4
治山・砂防事業推進議員連盟の県外視察	5
市町等砂防担当職員現場研修	
平成30年土砂災害の発生状況	6
土砂災害防止講習会の開催	8
わがまち(清水町・長泉町)	9
インフォメーション	10
お知らせ	12

速報

平成31年度 政府予算案閣議決定

特集

全国治水砂防促進大会

治山・砂防事業

推進議員連盟県外視察

市町等砂防担当職員研修

総括

平成30年 土砂災害の発生状況

全国治水砂防協会静岡県支部

年頭の御挨拶



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 原田 英之

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日頃から当支部の活動に対しまして、御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年は、平成30年7月豪雨や北海道胆振東部地震などにより、全国で約3,300件と年平均の3倍となる多くの土砂災害が発生し、残念ながら近年にない多くの尊い命が犠牲となっております。特に、平成30年7月豪雨では、広範囲において非常に激しい雨が降り続き、広島県や愛媛県を中心に1道2府28県で土石流や土砂・洪水氾濫などの約2,500件の土砂災害が発生し、死者数や住宅の全壊戸数などで平成最大の被害となりました。

本県においても、9月の台風24号などにより40件の土砂災害が発生し、負傷者2名、一部損壊等の住宅被害10戸となっております。県では、今後の豪雨により被害の拡大が危惧される土石流災害2箇所において、災害関連緊急砂防事業による砂防堰堤の整備に着手しているほか、その他の箇所については、市町や関係機関と調整を図り、早期の安全対策が進められております。

土砂災害を防止するためには、国・県による土砂災害防止施設の整備の推進とともに、土砂災害警戒区域等の指定やハザードマップ等により、住民に土砂災害の危険性を認識していただき、豪雨等によりその危険性が高まった際には早期に避難していただくことが重要です。そのためには、市町による適時適切な防災情報の確実な伝達や住民や要配慮者等の参加による実践的な避難訓練の実施など、警戒避難体制の更なる充実・強化を図っていくことが必要であります。

今年も引き続き県と連携し、地域の安全・安心を確保できるよう砂防関係事業の普及・発展に努めてまいりますので、会員の皆様におかれましても、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年も平穏な年であるよう祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。

2018年 しずおかの砂防 10 大ニュース

平成30年度から富士山の火山噴火対策に着手

国土交通省富士砂防事務所が実施している富士山の直轄砂防事業について、平成30年度より降雨に起因する土砂災害対策に加えて、火山噴火に起因する土砂災害対策を富士山全周において着手されました。



県9月補正予算に砂防施設の緊急防災対策1.4億円

平成30年7月豪雨における甚大な土砂災害を踏まえ、住宅に近接する砂防施設の除石工等の緊急対策を9月補正予算で確保しました。



静岡県支部第73回通常総会開催!

5月30日、静岡市内において静岡県支部第73回通常総会を、難波副知事、山崎県議会建設委員長、石塚砂防施設評価分析官、(一社)全国治水砂防協会岡本理事長の御出席のもと開催しました。



「土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール」表彰

静岡市立森下小3年の川口さんの絵画など、3人の作品が優秀賞の国土交通事務次官賞を受賞! 3月23日(金)県庁で表彰式を実施しました。



市町等砂防担当職員現場研修を富士砂防・富士土木管内で実施

本年発生土石流災害で緊急事業を2件着手

平成30年発生土砂災害のうち、規模の大きな「田沢椎ノ下沢(浜松市)」と「南郷北沢(松崎町)」の2件を災害関連緊急砂防事業等により、緊急的な砂防堰堤の整備に着手しています。



平成31年度 政府予算案閣議決定

速報

平成30年12月21日(金)、平成31年度政府予算案が閣議決定されました。国土交通省の行政経費等を含む予算額は、平成30年7月豪雨等の近年の災害を受けて実施した重要インフラの緊急点検等を踏まえた防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策を重点的に進めるよう、国費ベースで対前年度比1.18の約6兆8,609億円となっています。

予算のポイントの内、砂防関係事業に関するものを示します。

(単位: 億円)

事項	平成31年度(A)	平成30年度(B)	対前年度倍率(A/B)
水管理・国土保全局関係予算	10,569	8,014	1.32
治水事業等関係費	10,413	7,961	1.31
河川関係	8,669	6,773	1.28
砂防関係	1,564	1,048	1.49
海岸関係	180	140	1.29
下水道事業関係費	156	54	2.89
社会資本総合整備	21,887	20,003	1.09
うち防災・安全交付金	13,173	11,117	1.18
その他(道路・港湾等)	36,153	30,030	1.20
国土交通省関係予算国費 合計	68,609	58,047	1.18

- ※沖縄振興予算の国土交通省関係分を含む。
- 本表のほか、以下のものがある。
 - 受託者の負担に基づいて行う附帯・受託工事費 831億円
 - 復旧・復興事業(東日本大震災復興特別会計) 4,632億円
- 計数は、整理の結果異動することがある。

砂防関係事業における主要項目

平成30年7月豪雨等の近年の災害を受けて実施した重要インフラ緊急点検を踏まえた防災・減災、国土強靱化の3か年緊急対策として、以下の項目を重点的に推進する。

- ・中小河川における土砂・洪水氾濫等の危険性に関する緊急対策(砂防堰堤等の整備)
- ・インフラ・ライフラインの土砂災害に関する緊急対策(砂防関係施設の整備)
- ・土砂災害警戒区域等における円滑な避難の確保に関する緊急対策(砂防関係施設の整備)
- ・中小河川緊急治水対策プロジェクト(土砂・流木対策)
- ・火山噴火緊急減災対策砂防計画の策定及び同計画に基づく緊急対策等
- ・土砂災害対策のためのソフト対策に関する緊急対策(土砂災害ハザードマップの作成等)

砂防関係事業の新規制度等

- ・事業間連携及び大規模事業に関する個別補助事業の創設
近年の大規模災害を踏まえ、地方公共団体が優先的に取り組むべき防災・減災対策事業については、交付金による支援から、個別補助による計画的・集中的な支援に切り替える。
(例:道路事業の法面対策と連携した砂防堰堤の整備を個別補助で推進等)
- ・効率的な土砂災害対策の推進に向けた総合流域防災事業の拡充
既存ストックを活用し、流域全体で効率的に土砂・洪水氾濫等の土砂災害への対策を進めるため、流域を対象とした施設計画の策定又は変更を総合流域防災事業の交付対象に追加する。
- ・砂防関係施設等の長寿命化計画策定支援の延伸
砂防関係施設等のより効率的・効率的な長寿命化対策を進めるため、ライフサイクルコストの考慮等による長寿命化計画の変更に限り、防災・安全交付金の交付対象期間を5年間延長する。

土砂災害警戒情報の発表基準の見直し

砂防学や気象学の専門家や行政機関で構成される検討委員会により、土砂災害警戒情報の発表基準の見直しの検討を進め、来年度の運用を予定しています。

平成30年発生 の県内の土砂災害は40件

県内の土砂災害の過去10年の平均は約50件ですが、本年は40件(土石流:20件、地すべり:1件、がけ崩れ:19件)発生し、負傷者2名、住宅一部損壊等10戸の被害が生じました。



地すべり
(藤枝市岡部町野田沢)

狩野川台風60年シンポジウムが開催される

9月29日(土)、狩野川台風60年シンポジウムが伊豆の国市で開催、伊豆市立熊坂小4年生が「狩野川台風の記憶を繋いでいく」宣言を流域の7市町長に向け発表しました。



全国治水砂防促進大会が砂防会館で開催される

11月20日(火)、全国治水砂防促進大会が砂防会館(東京都)で開催され、15名の会員が参加されました。

大会後には県選出国會議員と国土交通省への要望活動を実施しました。



番
外

全国の平成30年土砂災害発生件数は、年平均の3倍を超える過去10年で最多(3,312件)となる

平成30年7月豪雨で広島県や愛媛県等平成最大となる甚大な土砂災害

平成30年7月豪雨等を踏まえた「重要インフラの緊急点検結果」に基づく防災・減災、国土強靱化の緊急対策が今後3年間で実施される。

砂防会館本館建て替え工事完成

※順番、枠の大小、写真の有無などについては、ニュースの大小を表していません。

全国治水砂防促進大会及び支部要望活動

11月20日(火)に、全国治水砂防促進大会が砂防会館で開催されました。

全国から、会員(市町村長)や国・県の砂防事業関係者1,200名が参加し、当支部からは15名の会員が出席されました。大会に先立ち、NHK解説委員の松本浩司氏による「命を守る“避難”をどう徹底するのか～7月豪雨の教訓」と題した特別講演が行われました。

大会は、綿貫民輔会長の挨拶、国土交通省森昌文事務次官の祝辞に続き、栗原淳一砂防部長から「これからの砂防」と題した講演をいただきました。その後、会員代表として、三村裕史広島県熊野町長と岡原文彰愛媛県宇和島市長から意見発表が行われました。

次に、宮城県蔵王町長である村上英人副会長から大会提言について説明がなされ、満場一致で採択されました。

大会終了後、地元選出国議員及び国土交通省へ、平成31年度予算確保に向けて要望活動を行いました。

お忙しい中、御出席いただきました会員の皆様には心より御礼申し上げます。



綿貫会長の挨拶



森事務次官の祝辞



栗原砂防部長の講演



会場の様子



静岡県支部の要望

1. 直轄砂防事業の推進

- 富士山砂防事業：富士山麓の砂防事業と火山噴火に対する防災対策
- 安倍川砂防事業：大谷山腹工、有東木地区砂防堰堤工群
- 狩野川砂防事業：市山地区砂防堰堤群、加殿地区砂防堰堤群

2. 直轄地すべり対策事業の推進

- 由比地区直轄地すべり対策事業：深礎杭、排水トンネル

3. 県による土砂災害防止施設(砂防、地すべり対策、急傾斜地崩壊対策)の整備とソフト対策の推進への支援・協力

- 避難所や要配慮者利用施設、重要交通網等の防災上重要な施設を保全する土砂災害対策の推進
- 土砂災害が発生した地域における、集中的な防災・減災対策の推進
- 砂防関係施設の長寿命化対策の推進
- 市町が行う警戒避難体制づくりや災害に強いまちづくりの基礎となる、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定の推進
- 市町が国・県と連携した、安全で迅速な避難のための取組の推進

参加市町

袋井市、富士宮市、東伊豆町、森町、河津町、西伊豆町、函南町、清水町、静岡市、浜松市、三島市、島田市、湖西市、伊豆市、川根本町 (15市町/35市町) ※太字は本人参加

治山・砂防事業推進議員連盟が 熊本県の砂防関係事業を視察

7月11日(水)・12日(木)に、水と豊かな生活環境の創造と安心して暮せる社会基盤の整備を目標に、砂防関係事業の推進を目指す「静岡県議会治山・砂防事業推進議員連盟」の現地視察が熊本県で行われました。

今回は、会員67名のうち16名が参加され、平成28年4月の熊本地震で大規模な土砂災害が発生した阿蘇大橋地区の直轄砂防災害関連緊急事業等を視察しました。

近年は、大規模地震や集中豪雨による甚大な土砂災害が全国各地で発生しており、県内にも多くの土砂災害危険箇所があることから、議員の皆様は現場の状況を熱心に視察され、発災直後の緊急対策や砂防事業の効果等に関する質問が多く出されるなど、土砂災害対策の重要性について再認識していただきました。



「阿蘇大橋地区砂防事業」工事現場にて



「狐塚川地区砂防事業」工事現場にて

氏名	
木内	満
小長井	由雄
桜井	勝郎
杉山	盛雄
土屋	源由
坪内	秀樹
鳥澤	由克
中澤	通訓
野崎	正蔵
野田	治久
早川	育子
前林	孝一良
増田	享大
宮城	也寸志
和田	篤夫
渡瀬	典幸
(以上16名)	

※50音順

市町等砂防担当職員現場研修を開催

11月16日(金)に、市長等砂防担当職員現場研修を国土交通省富士砂防事務所と富士土木事務所の管内で実施し、県内市町と県土木事務所の担当職員24名が参加し、土砂災害対策について学びました。

国土交通省富士砂防事務所の「由比地区地すべり(静岡市清水区)」と「大沢扇状地(富士宮市)」、富士土木事務所の「川坂沢砂防堰堤(富士市)」と「内房山口B急傾斜地(富士宮市)」などで、最新の砂防技術や各現場での工夫、苦勞した点などを現場で研修しました。

参加者からは、「日頃見ることの無い大規模な現場で研修ができて参考になった」「現場の担当者から用地や流末水路等の地元調整、コンクリートの打設順序や軟弱地盤対策の工夫が聞けて参考になった」「砂防の重要性を改めて感じる事ができた」などの感想が寄せられました。



現場研修の様子(由比地区)



現場研修の様子(川坂沢)

参加市町等

《市 町》7市町
静岡市、熱海市、島田市
富士市、藤枝市、菊川市
南伊豆町

《土木事務所》7土木事務所
熱海土木事務所
沼津土木事務所
富士土木事務所
静岡土木事務所
島田土木事務所
袋井土木事務所
浜松土木事務所

静岡県内土砂災害の発生状況

土砂災害は、降雨や地震などにより突然発生し、尊い生命や貴重な財産を一瞬にして奪い、地域に深刻な被害をもたらします。

土砂災害は全国各地で毎年発生し、過去10年間の年平均1,100件、県内においても約50件も発生しています。

平成30年は、県内で40件(土石流：20件、地すべり：1件、がけ崩れ19件)の土砂災害が発生し、負傷者2名、住宅一部損壊等10戸の被害が生じております。

県では、今後の豪雨により被害の拡大が危惧される土石流災害2箇所において、災害関連緊急砂防事業による砂防堰堤の整備に着手し、その他の箇所についても、市町や関係機関と調整を図り、早期の安全対策を進めています。

一方、3箇所で擁壁等の土砂災害防止施設が土砂や倒木を食い止め、人家への被害を軽減したことが確認でき、施設のストック効果が着実に地域への安全度の向上に貢献しています。

■平成30年 土砂災害の発生状況(国交省所管)

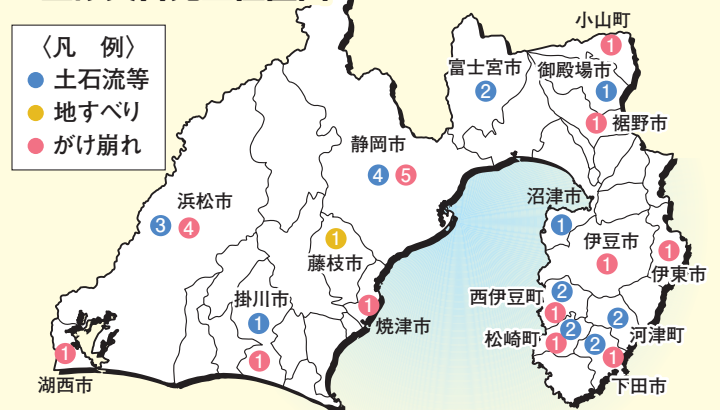
種別	年次	平成30年														計	
	発生日	3月5日	4月15日	4月18日	4月22日	5月3日	6月6日	6月20日	6月21日	7月6日	7月7日	9月10日	9月27日	9月30日	10月1日		10月3日
	原因	豪雨	豪雨	不明	不明	不明	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	台風24号	台風24号		台風24号
土石流等	発生件数	1				1		1	2		1	7		3	4		20
地すべり	発生件数				1												1
がけ崩れ	発生件数		1	1			1	1	1	1		3	1	3	5	1	19
	計	1	1	1	1	1	1	2	3	1	1	10	1	6	9	1	40
	内施設効果あり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3



土石流(賀茂郡河津町大鍋)

■土砂災害発生位置図

※数字は発生件数



がけ崩れ(浜松市天竜区西藤平)

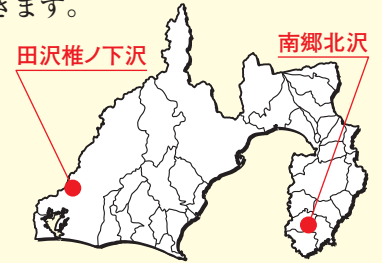


崩壊土砂や倒木からの被害を軽減(静岡市葵区新聞)

災害関連緊急砂防事業の実施

平成30年の土砂災害のうち、災害規模が大きく、次期降雨等により被害が拡大するおそれがある「田沢椎ノ下沢(浜松市北区)」と「南郷北沢(松崎町)」について、国土交通省に災害関連緊急砂防事業を申請し、緊急性が認められ事業採択されました。今後、速やかに砂防堰堤を整備して地域の安全を図っていきます。

箇所名	位置	事業費(千円)	設置種別	被災原因	採択日
田沢椎ノ下沢	浜松市北区引佐町	398,788	砂防堰堤工	5月13日の豪雨	H30.6.28
南郷北沢	賀茂郡松崎町南郷	114,000	砂防堰堤工	9月7日から10日の豪雨	H30.11.16
合計	2箇所	512,788			



「田沢椎ノ下沢(浜松市)」災害関連緊急砂防事業

5月13日の豪雨により「田沢椎ノ下沢(浜松市北区)」で大規模な山腹崩壊が発生しました。幸い人家等への被害はありませんでしたが、溪床内には不安定な土砂や巨礫が堆積し、下流への被害の拡大が危惧されたことから、災害関連緊急砂防事業の採択を受け、砂防堰堤(高さ14m、長さ52.5m)を緊急的に整備し、人家5戸、引佐北部小中学校及び県道等の保全を図ります。



「南郷北沢(松崎町)」災害関連緊急砂防事業

9月7日から10日の豪雨により「南郷北沢(松崎町)」で人家3戸が床下浸水する土石流が発生しました。溪床内には不安定な土砂が堆積しており、次期降雨等でさらなる被害が危惧されたことから、災害関連緊急砂防事業の採択を受け、砂防堰堤(高さ7m、長さ64m)を緊急的に整備し、人家14戸及び公民館等の保全を図ります。



「土砂災害防止講習会」と「土砂災害出前講座」の開催

土砂災害による人的被害を未然に防止するためには、地域住民が土砂災害の恐ろしさを理解し、日頃から身の回りの危険箇所や避難経路等を確認して、「日頃の備えと早めの避難」を心がけていただくことが重要です。

本県では防災知識の普及活動として土砂災害警戒区域周辺の地域住民や自主防災組織の方々を対象にした「土砂災害防止講習会」や防災教育の一環として小中学生を対象にした「土砂災害出前講座」を実施しています。

「土砂災害出前講座」では、砂防工事現場の見学会や学校の砂場で土砂災害の発生メカニズムの説明等を行い、参加した児童から「これまでは、土砂災害について意識することはなかったけど、これからは身の回りの土砂災害が起こりそうな場所を調べてみたい。」「今日、学んだように、土砂災害警戒区域の情報を見て自分たちの地域を調べ、避難経路など確認し、家族と話し合いたい」「大人になったら危険箇所がなくなるように、いろいろなところを直したい」等の声が寄せられました。

今後も積極的に土砂災害防止に関する知識の普及を図ってまいります。

■ H28年度～H30（12月末時点）講習会、出前講座実施回数

	H28年度	H29年度	H30年度（12月末）
講習会実施回数（受講者数）	37回（2,480名）	32回（3,318名）	39回（3,140名）
出前講座実施回数（受講者数）	10回（435名）	11回（424名）	12回（751名）



講習会の様子（島田土木事務所：藤枝市）



門島現場見学の様子（浜松土木事務所：浜松市天竜区）



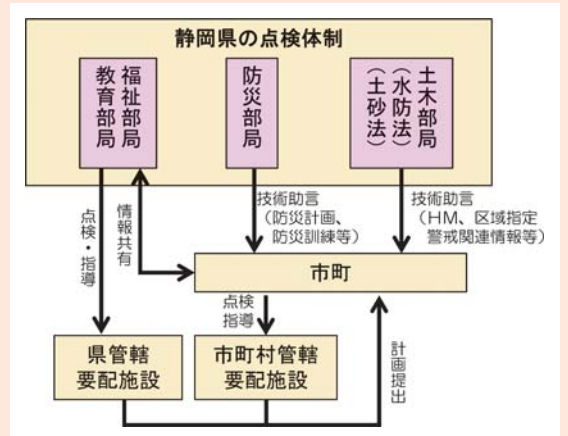
出前講座の様子（下田土木事務所：西伊豆町立仁科小学校）

要配慮者利用施設の避難確保計画作成等の支援

平成29年6月19日に改正土砂災害防止法が施行され、土砂災害警戒区域内で市町地域防災計画に位置付けられた要配慮者利用施設の管理者等に対して、避難確保計画作成、避難訓練の実施が義務づけられました。

市町は、要配慮者利用施設の円滑かつ迅速な避難のために、土砂災害に関する情報、予報及び警報の伝達方法方法を定め、ハザードマップの配布に加え、対象施設の避難確保計画の内容確認や助言を行う必要があります。

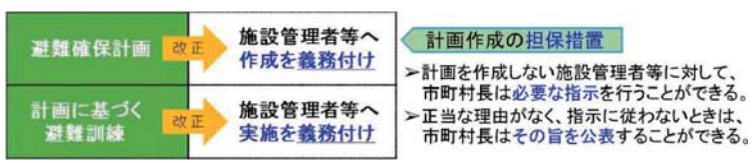
県では、対象施設の避難確保計画の作成等の促進が図られるよう、庁内関係部局と点検体制を整備するとともに、講習会への講師派遣など、市町や施設管理者等への支援を実施しています。



静岡県 の点検体制



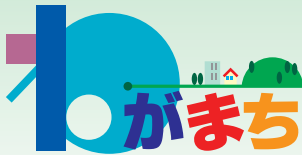
避難訓練の状況（熱海市）



法改正の概要

- 実効性ある避難確保計画が作成されるよう、**土砂災害の危険性等の説明**などによる**防災意識の向上**を図る
- 都道府県及び市町村の**関係部局が連携し、積極的な支援、避難確保計画の内容や避難訓練の実施状況の確認**を行う
- 施設管理者等により主体的に避難確保計画が作成されるよう、**指示・公表を行う際にも丁寧な説明**を行う

地方公共団体による対策の取組



清水町

建設課

清水町は、静岡県東部の伊豆半島の付け根に位置し、西に黄瀬川、南に狩野川、町の中央部には湧水柿田川が流れ、温暖な気候に恵まれた緑と清流の美しい町です。

霊峰富士を北西に望み、県東部地域の中心都市である沼津市と三島市との間に位置し、国道1号が町の北部を東西方向に通過するとともに、東名高速道路沼津インターチェンジやJR東海道新幹線三島駅にも近く、広域的な交通の利便性が非常に高い状況にあり、交通の要衝地となっております。

また、町の中心にある柿田川は、日量約100万立方メートルの湧水量を誇り、岐阜県の長良川、高知県の四万十川とともに日本三



柿田川(第二展望台湧き間)

大清流のひとつに

数えられ、平成23年9月には国の『天然記念物』に指定されるなど、豊かな自然に恵まれた町でもあります。

町の商業は、食品・医療・雑貨から建設資材まで、様々な商品を扱う卸商約70社が集まる沼津卸商社センターがあり、県東部の流通拠点として重要な役割を果たしています。

また、国道1号沿線への店舗の進出も目覚ましく、自動車小売業、郊外型ショッピングセンターなど、交通の便を生かした新たな商業ゾーンを形成しています。

ぜひ清水町にお越しいただき、貴重で豊かな自然と賑わいを満喫してください。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。



柿田川(ミシマイカモ)

長泉町

建設計画課

長泉町は、北に富士山を仰ぎ、南に駿河湾を望む、温暖な気候、美しい自然環境に富んだ町です。東京都心から小一時間。県内屈指の人口増加率と合計特殊出生率、9年連続の地価公示価格上昇は「暮らしやすさ」の証です。今後も人口の増加が見込まれており、「奇跡の自治体」と呼ばれています。

昨年は町の新たな顔であるブランドシンボル「ちょうどいいが いちばんいい Nagaizumi」を発表し、町の優しい雰囲気と人々が気持ちよく過ごしている雰囲気を、風や水の流れるラインで表現しました。また、3色で構成されたラインはちょうどよいバランスを表現しています。「青」と「黄」が重なる『緑』がその象徴です。色については、自然の豊かさや水の恵みを表す「青」と人の温かさや活力、未来への希望を表す「黄」。そして、その重なりをブランディング活動を表す「緑」で表現しています。

最後に、長泉町の魅力がぎゅっと詰まった、ブランドシンボルのメッセージを紹介します。

「近ごろ、世の中、〇〇すぎるが多すぎる。目立てばいいというわけではありません。そこへきて、この長泉町です。

静岡県なのに、東京まで小一時間。地方なのに財政が豊か。

緑が多いのになんだか都会。

産業は充実してるし、少子化の時代でも、子どもが多い。

有名じゃないのに、すごく暮らしやすい。

長泉町は、一長一短のないきわめてバランスに優れた都市なのです。

ながく住むなら、やっぱりこういう町がいいですよ。

え？それでも何か目立つ特徴がほしかった？

いえ、欲をかいてはいけません。ちょうどいいが、いちばんいいんです。

あなたに、みんなに、もっと“ちょうどいい”町にしていきませんか。」



ブランドシンボル ロゴマーク



バルながいずみ

由比地すべり親子見学会が開催される

8月25日に、国土交通省富士砂防事務所により大規模な地すべり対策事業が進められている「由比地区(静岡市清水区)」で現場見学会が開催され、親子17名が地すべり対策工事を学びました。

当見学会では、県の由比地すべり管理センターで当地区の災害の歴史とこれまでの対策を学び、その後、普段入ることができない排水トンネルの工事現場で最新の土木技術を体感しました。

子供達からは、「トンネルをトロッコで探検できて楽しかった」、「ドリル式掘削機がかっこ良かった」などの感想をもらい、ダイナミックな建設現場の魅力を感じていただきました。



排水トンネル坑口での集合写真

狩野川台風60年シンポジウムが開催される

9月29日(土)に、「狩野川台風60年シンポジウム」が伊豆の国市の長岡総合会館アクシスかつらぎで開催されました。国土交通省沼津河川国道事務所の藤井和久所長による狩野川放水路や砂防堰堤の整備など狩野川流域における治水事業の取り組みの紹介に続き、「世代を超え、つながる狩野川台風の記憶 ～次の60年への備え～」をテーマに、パネルディスカッションが行われました。

最後に、伊豆市立熊坂小の4年生16名が狩野川台風について学習し感じたことを、狩野川流域の7市町長に「狩野川台風の記憶を繋いでいく」宣言として発表を行い、来場者は災害に強い地域づくりへの決意を新たにしました。



熊坂小4年生の宣言

ジオフォーラム2018 IN 静岡が開催される

10月5日(金)に、静岡県地質調査業協会主催(当支部後援)による「ジオフォーラム2018 IN 静岡」がしずぎんホール ユーフォニアで開催されました。今回は、「火山とのかかわり、地質リスクへの対応」をテーマに、コンサルタントや県の担当者による6つの技術発表が行われました。また、東京大学名誉教授の藤井敏嗣氏による「我が国の火山活動の現状と今後：富士山噴火はあるか」と題した特別講演があり、活発な質疑応答が行われました。



藤井敏嗣東京大学名誉教授の講演

東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議の開催

10月11日(木)、12日(金)に、東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議を浜松市内で開催しました。

この会議は、東海地区における地すべり対策事業と急傾斜地崩壊対策事業に関する課題や各県の対応状況等の情報共有を図るために実施するものです。また、浜松土木事務所管内の「門島地区」地すべりや「渡ヶ島久保地区」急傾斜地を視察し、活発な意見交換会を行いました。



「門島地区」視察の様子

平成30年度 東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が開催される

10月23日(火)に、東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が岐阜市で開催され、当支部からは原田支部長と梅原技監が出席しました。

来賓の国土交通省の栗原砂防部長からは平成30年7月豪雨災害をはじめとする「砂防行政に関する最近の話題」、全国治水砂防協会の岡本理事長からは全国1400の市区町村を対象に実施した「砂防行政に係るアンケート調査」などの話題提供がありました。また、各支部の活動取組や課題について、各支部長との熱心な意見交換が行われました。

第4回伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会の開催

11月12日(月)に、「第4回伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会」を熱海市の県総合庁舎で開催しました。

今回の検討会では平常時からの準備事項のほか、これまでの検討をもとに作成した緊急減災対策砂防計画の素案について審議していただきました。委員の皆様から頂いた意見を踏まえて計画を修正し、次回検討会での最終審議を経て、計画を策定・公表する予定です。



第4回検討会の様子

平成30年度静岡県砂防・治山連絡会議が開催される

11月27日(火)に、砂防事業と治山事業が連携して効率的に事業を実施するため、砂防・治山連絡会議が静岡県産業経済会館で開催されました。

会議には国土交通省中部地方整備局、静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、富士砂防事務所、関東森林管理局、静岡森林管理署、伊豆森林管理署、天竜森林管理署、大井川治山センター、県砂防課、県森林保全課の担当者が出席し、来年度以降に事業実施を予定している箇所の事業調整が行われました。



各機関との事業調整の様子

静岡県土砂災害警戒避難基準雨量検討委員会の開催

12月10日(月)に、砂防学や気象学の専門家や行政機関で構成する「第2回静岡県土砂災害警戒避難基準雨量検討委員会」を県庁で開催し、土砂災害警戒情報の精度向上に向けた発表基準の見直しに関する検討が行われました。

土砂災害警戒情報の運用開始から10年が経過して、降雨や土砂災害のデータが蓄積されたことや、国から見直しに関する新たな知見が示されたことから行っているもので、今回の委員会では、発表基準の見直し案や今後の方針について審議していただきました。

今後、本年6月からの運用を目指し、静岡地方気象台と共同して準備を進めていきます。



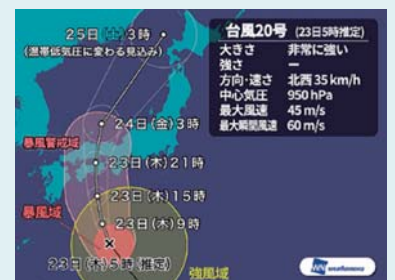
検討委員会の様子

市町長等砂防関係事業県外視察の中止(台風20号襲来により)

当支部は、8月23～25日に三重県と和歌山県の砂防関係事業の視察を予定しておりましたが、台風20号が本県及び視察先を直撃する恐れがあったため、中止としました。

本年の県外視察は、平成23年9月の台風12号による紀伊半島大水害の復旧状況について、和歌山県那智勝浦町や三重県紀宝町の現場視察とともに国や県、紀宝町長との意見交換を予定し、今後の危機管理の参考に企画したものでした。

急な中止により、参加予定の皆様や視察先の関係される皆様には大変ご迷惑をおかけしました。



台風20号の進路

お知らせコーナー

土砂災害防止に関する絵画・作文の応募へのお礼

6月1日～9月15日の間、県内の小中学生の皆さんに土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めていただくため、作品を募集したところ、多数の応募をいただきました。誠にありがとうございました。なお、入選発表及び表彰式は平成31年3月を予定しています。



【応募状況】

部 門	小学生	中学生	計
絵 画	11	79	90
作 文	4	9	13
合 計	15	88	103

砂防および地すべり防止講習会のお知らせ

砂防および地すべり対策業務を担当する職員の実務並びに関連知識の習得を通じ、今後の円滑な業務の遂行に資するため、講習会が開催されます。

日 時：平成31年2月14日(木)・15日(金)
 会 場：砂防会館別館 シェーンバッハ・サボー 利根
 参 加 費：4,000円 (テキスト代2,000円、受講費2,000円)
 主 催：一般社団法人 全国治水砂防協会 TEL (03)3261-8386
 問合せ先：全国治水砂防協会静岡県支部 TEL (054)221-3042



平成31年 砂防関係の 主な行事



●支部活動予定

5月22日(水) 静岡県支部役員会および第74回通常総会(静岡市内)
 6月1日(土)～7日(金) かけ崩れ防災週間(県内各市町)
 1日(土)～30日(日) 土砂災害防止月間(県内各市町)
 1日(土)～30日(日) 急傾斜地パトロール(県内各市町)
 6月初旬 土砂災害・全国防災訓練(県内各市町)
 みんなで防ごう土砂災害(青葉シンボルロード)
 市町等砂防担当職員研修(静岡県庁)
 8月29日(土)～31日(月) 市町長等砂防関係事業県外視察(北海道方面を予定)
 11月19日(火) 砂防関係事業促進要望(議員会館等)

●協会本部活動予定

2月14日(木)・15日(金) 第59回砂防および地すべり防止講習会(砂防会館)
 5月29日(水) 評議員会・参与会(砂防会館)
 30日(木) 第83回通常総会(砂防会館)
 10月24日(木)・25日(金) 砂防現地視察と討論会(未定)
 11月18日(月) 参与会(砂防会館)
 19日(火) 全国治水砂防促進大会(砂防会館)



【表紙写真】

富士投影(撮影地:富士市)

長田 栄さん(静岡県富士宮市)

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

編 集 ・ 後 ・ 記

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、平成30年7月豪雨や台風等により各地で大きな土砂災害が発生しました。また、9月には北海道胆振東部地震により多くの土砂災害が発生し、自然災害の恐ろしさを痛感するものでした。改めて被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

本年も、土砂災害防止に向け皆様のお役に立つ、より良い誌面づくりに努めていきたいと思っております。年頭にあたり、会員の皆様方の御多幸を祈念しますとともに、本年も砂防だよりのご愛読いただけますよう、よろしく願いいたします。

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>



第197号 発行日：平成31年1月1日

編集・発行：全国治水砂防協会静岡県支部

〒420-8601 静岡県葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課内
 TEL(054)221-3042 FAX(054)221-3564 E-mail: sabo@pref.shizuoka.lg.jp